

2014年1月7日

拝啓

明けましておめでとうございます。2014年最初の大使レターをお送りします。昨年は、安倍晋三総理のポーランド訪問やヴィシェグラード諸国（V4）首脳との会談など、日本・ポーランド関係は極めて活発で充実した年でありました。今回のレターでは、昨年からの進展を振り返りつつ、新しい年を展望したいと思います。

1 両国経済と経済関係

日本経済は、力強く回復基調を歩んでいます。一年前に就任した安倍総理による「アベノミクス」の効果です。日経平均株価は80%近くも上昇し、4四半期連続で主要先進国を上回るプラス成長を記録し、10年以上続いたデフレも収束に向かっています。このように日本経済を取り巻く空気は一変しました。一方、ポーランド経済もEU経済も、回復の兆しを示していることは喜ばしいことです。

このように両国経済が上向いているときこそ、日EU・EPAを早期に締結して両国経済関係から得られる相互利益を最大化すべきです。この交渉は既に3回にわたって行われています。日EU・ビジネス・ラウンドテーブルなどの業界団体もその早期締結を強く求めています。日本からの直接投資やポーランド/EUからの対日輸出も、この協定の早期締結により飛躍的に拡大することは確実です。引き続きポーランドの支援を得て、本年にも締結に向け大きな前進が見られることを期待しています。

2 文化交流

昨年、日本にとって嬉しいニュースが相次ぎました。2020年のオリンピック・パラリンピック開催地に東京が選ばれました。また、UNESCOにより、「富士山」が世界遺産に登録され、日本人の食文化「和食」が無形文化遺産に認定されました。これらニュースは、経済の回復と並んで、日本国民に喜びと勇気を与えるものとなりました。

本年、クラクフの日本美術技術博物館（通称「マンガ館」）は、設立20周年の記念すべき節目を迎えます。この博物館は、アンジェイ・ワイダ監督を創始者として、日ポーランド両国の協力により誕生し、日本文化と交流の中心的施設として発展してきました。この博物館は、今やポーランドのみならず、欧州においても大きな人気を博しています。20周年を祝賀してマンガ館では多くの記念行事が予定されています。

また、今年は、昨年の中脳会議で合意された「V4+日本」交流年でもあります。ここポーランドでも交流イベントが開催されますし、日本においてもポーランドを始めヴィシェグラード諸国との交流行事が企画されています。大いに楽しみにしているところです。

3 政治・安全保障

世界のパワーバランスは、急激に変化しつつあります。両国を取り巻く国際・地域情勢も目を離せない状況です。東アジアでは、北朝鮮による核・ミサイルの開発、人権侵害（拉致問題を含む）など、一層厳しさを増しています。武力を背景に現行の海洋秩序を一方的に変更せんとする懸念すべき動きもあります。国際テロやサイバー攻撃と

いった国境を越える脅威も増大しています。日本政府は、「積極的平和主義」の立場から、日米同盟を機軸としつつ、自由、民主主義、人権、法の支配といった価値観を共有する国々と連携して、地域と国際社会の平和と安定にこれまで以上に積極的に寄与していく決意です。12月に設置された「国家安全保障会議」や新たに策定された「国家安全保障戦略」は、このような決意に基づく取り組みです。その際、日本のこれまでの平和国家としての歩みを引き続き堅持していくことは言うまでもありません。（日本の国家安全保障政策の新たな取り組みの詳細については、<http://www.mofa.go.jp/policy/security/index.html> を参照願います。）このような日本の積極的平和主義の立場については、V4外相やEU首脳の歓迎するところとなっています。

欧州では、東方パートナーシップ（EaP）の行方、中でもウクライナ情勢が動いています。我が国は、EUのEaP政策を支持しており、EaPについては10月のV4+日本外相会合でも議論されました。また、11月のEaP首脳会議後のウクライナ情勢については、12月にシコルスキ外務大臣と岸田外務大臣との間で有益な電話会談が行われました。

このように普遍的価値を共有するパートナーとして日本とポーランド/V4との協力と連携は、安全保障や防衛の分野を含め、今年も着実に進むこととなるでしょう。

最後に安倍総理による靖国神社参拝について申し上げます。この参拝については、「歴史認識の変更」や「軍国主義化」を示すものとして批判する向きがありますが、

そのような批判は全く当たりません。総理自身が明確に述べているように、参拝は過去への痛切な反省に基づき、戦争犠牲者に敬意と感謝を表すとともに、二度と戦争を起こしてはならないとの誓いを新たにするためのものであります。もとより戦争犯罪者や軍国主義を礼賛するものではありません。前述したとおり、戦後 68 年間にわたって貫いてきた平和国家としての歩みを堅持していくとの我が国の方針にはいささかの変更もありません。

今年も忙しい年になりそうです。しかし、同時に、今年は昨年のもメンタムを活かしつつ、両国関係を一層深化させるチャンスでもあります。引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

敬具